

Shake Hands 常滑国際交流協会



第123号 2019年1月10日発行

〒479-0837 常滑市新開町5-58 電話・FAX：0569-34-4797

メール：tia@japan-net.ne.jp ホームページ：http://www.japan-net.ne.jp/~tia/

JENESYS ホームステイ受け入れ体験記



JENESYSとは21世紀東アジア青少年大交流計画「JENESYS Programme(Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths)」とは、大規模な青少年交流を通じてアジアの強固な連帯を基に、日本政府により進められる事業で、平成19年から相互理解と友好関係の促進を目的とした交流プログラムが実施されています。JICE(日本国際協力センター)は、このプログラムの実施団体の1つで、自治体、学校、各地の国際交流団体と協力しながら、このプログラムの実施を担当しています。

日本国際協力センター(JICE)中部支部よりシンガポールの学生のホームステイ受入の依頼があり、当協会ではこの事業に協力し、会員の皆様にホストファミリーをお願いしました。今回のホームステイの期間は2018年12月7日(金)~9日(日)2泊3日、訪日団一行の人数は15名で、主に教育大学の大学生と大学院生で男性2名女性13名でした。ここに各ホストファミリーの体験報告をお届けします。



12月8日は朝9時出発で名古屋城に出かけました。久しぶりの青空にウキウキしていた Sebastia と Aik でした。2人ともじっくりと日本のお城を見るのが始めてだということで私が見落としそうな細かい細工などもすごく熱心にみて写真をたくさん撮っていました。城内にある庭園を散策し綺麗な紅葉を満喫した後大須観音へ。そこでラーメンを食べ大須観音でお参りし食べ歩きをしお腹も心も充実の1日でした。夜は常滑で居酒屋へ。2人ともお酒が好きだったので主人と三人で毎夜宴会です。居酒屋では初の馬刺にちょっと興奮気味の Aik。翌日にランチ

にあったローストビーフでさえ馬刺と思ったほどでした。とにかく陽気で心優しい2人でとても良い時間を過ごしました。そうそう帰り際に義母のお抹茶を楽しんでくれて義母も嬉しそうでした。(村田富美)



我が子より若い Nadiah と Ayu。

日本では社会人になっている31歳と28歳。ほとんどがこの年齢のシンガポールの大学生。高校を卒業して働き、お金をためてから大学へ入学。しかし学費は無料。男性は20歳から2年間の徴兵もある。日本と実情が大きく違うことにびっくり。案内した観光地には興味深く関心を示し、食事の後には「おいしい食事をありがとう」とその都度、感謝の意を伝えてくれる礼儀正しさもしっかりある。久しぶりのホストファミリーであったので心配もあったが、それを見事に払拭し楽しい有意義な時を過ごすことができた。ありがとうございました。(山田高史)



小学生になった孫達が英語を習い始めこれはいい機会かな、私の単調な生活に刺激を受けるいい機会かなとホストファミリーを受けることにしました。我が家に来てくれたのはヤニーとグレンダと言う可愛い女の子。日本が大好きで何度も日本に訪れていました。心配していた言葉も、日本語半分、英語半分後はジェスチャー。

みんな直ぐにとけ込みました。二泊三日の短い間でしたが家族みんなで楽しめたこと、孫たちが海外に興味を持ってくれたことなど、受けてよかったと思いました。二人と別れた後「またね、全部ありがと」と日本語のLINEが入りました。心が温かくなり嬉しい気持ちになりました。(日比芳子)



「ナイス・テウ・ミーテウ・ユー」「好き？ノーライク？」「OK?」大丈夫?」とわけのわからない単語のみの会話で終わった2泊3日でした。

シンガポール大学生のメアリーとヘイリーは美しくかわいい女子大生でした。イラストが得意なメアリーはホームステイのひとコマをイラストにして私達にプレゼントしてくれました。唄が上手なヘイリーは我家のカラオケで楽しませてくれました。ステキな思い出となりました。息子四人が県外で自立していて、夫婦二人なので本当にハッピーな時間でした。JENESYS と常滑国際交流協会に感謝しています。(都築 靖 月江)



「最終日のお別れ会でパフォーマンスをしよう。」という母の言葉がきっかけで、Fazz, Amirah との三日間は笑いあり涙・・はないが突風ありの非常に印象深いものとなった。

1日目:【私たちの決意】 初日の夜どんなパフォーマンスにするかを議題に家族会議を行った。USA?ペッパー警部?候補は出るがまとまらない。集中力切れの私は休憩を兼ねて2人にジャパングリッシュ(和製英語)の盆踊り動画、「TOKYO BON」を紹介した。これがなかなかうけ、私たちの想いはひとつに決まった。Tokyo Bon~東家 ver.~を披露しよう。**2日目:【風ニモマケズ】** この日は名古屋観光のついでに、パフォーマンスのス

ライド制作のためマクドナルドやスターバックスなど和製英語スポットで写真撮影を行った。寒くて強い風も吹く中セルフイー、髪はボサボサ目は半開きの写真ばかりだが、それも今では良い思い出である。**3日目:【大成功?!】** 発表の日の朝、まだ誰も盆踊りの歌の歌詞を覚えていないが、火事場の馬鹿力を信じ、喫茶店でモーニングを食べて発表に備えた。こうして、少々準備不足で挑んだパフォーマンスであったが、JICE や国際交流協会の方々のお力添えあって大成功であった。(東 未悠)



シンガポールには訪れたことがありませんでしたが、同じアジアということで、特に問題はありませんでした。食べ物も積極的に日本食を試したり、楽しく過ごせたと思います。小学校の先生になるまでは、小学校で働いている方だったので、平日にかけて来られたら、地域の小学校に訪問できたのになあと残念でした。やはり日本の小学生や中学生の学校の様子なども知りたかったようでした。外で遊んでいる子供もいなかったの、とくにその辺りが体感できず帰られてしまいました。あと、やはり受け入れは2人だと準備や車の移動など大変なので、1人だと有難いと思いました。ただ、来る方はきっと、2人だと心強いでしょうね。難しいところです。

シンガポールを身近に感じる事ができてよかったです。また機会があれば受け入れてみたいと思います。(問宮年守)



て常滑の焼き物について知ることができました。貴重な体験でした。(大石洋子)

今回のプログラムで、我が家は引率のレン先生をホストさせて頂きました。大変日本通で、日本食も大好きとのことだったので、ウナギや手巻き寿司を楽しみました。

土曜日には、イチゴ狩りに出かけました。シンガポールでは日本のイチゴは一パック五十ドルもするらしく、口にすることが無いので大変喜ばれました。また、イチゴの大きさと甘さにびっくりされていました。

セラミック専門の先生らしく、セラモールに案内すると、そこで何時間もかけて全店舗をご覧になって品定めされていました。私も全店舗を見て歩いたのは初めてで、先生からも焼き物の説明を聞いて、改めて



今回が4度目のホームスティの受入れて、初めてのアジアからの学生の方でした。お二人共非常に真面目で、とても日本の文化に興味をお持ちでした。

短い時間でしたが、着物を着て薄茶のお点前や、生け花を体験してもらいました。

焼き物散歩道や、常滑イオンでご家族へのお土産を買ったり、とても楽しい時間を一緒にでき、私ども家族も大変良い経験をさせていただきました。

(片山ゆかり)



で1泊し東京で歴史的建造物の視察をして翌日朝、羽田から帰国しました。

JICE(日本国際協力センター)の主催で12月9日(日)の11時からイオンホールで訪日団の歓送会が行われ、訪日団の学生によるパフォーマンスやホストファミリーや学生との合同合作のパフォーマンスが大変な人気でした。

訪日団一行はこの後、名古屋